

国 官 技 第 3 4 5 号
平成 2 1 年 3 月 3 1 日

各 地 方 整 備 局 企 画 部 長
北 海 道 開 発 局 事 業 振 興 部 長 } あて

国土交通省大臣官房技術調査課長

非破壊試験による配筋状態及びかぶり測定を用いた品質管理について

非破壊試験による配筋状態及びかぶり測定を用いた品質管理手法の導入は、コンクリート構造物の出来形及び品質規格の確保を一層図るとともに、監督・検査の充実を目的として実施するものである。

このたび、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）（以下、「鉄筋測定要領（案）」という）」を別添のとおり定めたので、各地方整備局等においては、下記に留意の上、非破壊試験を用いたコンクリート構造物の品質管理を実施されたい。

記

第1 目的

非破壊試験を用いた品質管理手法（以下、「本手法」という。）は、非破壊試験を用いてコンクリート構造物の鉄筋の配筋状態及びかぶりが適正に確保されていることを確認するために行うものであり、コンクリート構造物の適正な品質確保並びに施行管理や監督・検査の充実を目指すものである。

第2 試行における対象工事の範囲

対象構造物は、新設のコンクリート構造物のうち、平成21年度以降に施工（新規・継続）する橋梁上部工事、橋梁下部工事及び重要構造物である内空断面積 25m^2 以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）とする。

第3 発注者及び請負者が実施すべき事項

非破壊試験を用いたコンクリート構造物の品質管理は、別添「鉄筋測定要領（案）」に従い実施するものとする。その際、発注者（監督職員、検査職員）及び請負者が実施すべき事項を、下記1から3に記す。

1. 請負者による施工管理

請負者は、「鉄筋測定要領（案）」に基づき、日常の施工管理を実施する。

また、測定方法や測定箇所等については、施工計画書に記載し提出するとともに、測定結果については、試験結果報告書（「鉄筋測定要領（案）」8 報告参照）を作成し、測定後及び完成検査時等に提出・報告を行う。

2. 監督職員による立会

設計図書の規定に従い、監督職員は、請負者が行う非破壊試験に対し、1 工事につき1 回以上立会するとともに、試験結果報告書を確認する。

3. 検査職員による完成検査

検査職員は、完成検査時に全ての測定結果報告書を確認する。また、試験結果報告書の確認に加え、任意の箇所を選定（1 箇所以上）し、「鉄筋測定要領（案）」に基づく非破壊試験により鉄筋の配筋状態及びかぶりの適否を判断する。足場等が必要となる箇所の測定を実施する場合は、あらかじめ、足場等の確保を指示しておくものとする。

なお、中間技術検査においても、出来るだけ測定結果報告書の活用による検査の実施を行うものとする。

第4 試験に要する費用

試験に要する費用は、別途技術管理費に積み上げ計上すること。

第5 その他

発注者及び請負者は、本手法の趣旨及び非破壊試験の実施手法を十分に理解しつつ、本手法の円滑な実施に努めるものとする。